

## 委託訓練モデルカリキュラム（在職者向け） 補足説明資料（案）

### 1. カリキュラム概要

カリキュラム名	クラウドを活用した情報共有能力の拡充
受講条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Word や Excel、PowerPoint の基本的な操作（表やグラフを用いた資料作成）ができる</li> <li>・ 業務推進や事業展開において何らかの課題意識を持っており、IT を活用してその課題を解決できないか検討している</li> </ul>

### 2. カリキュラム全体に係る運用上の留意点

- 訓練終了後、各企業において受講者が実際にクラウドの活用検討ができるよう、実技においては、ケースの内容にとどまらず、一般的にどのような業務でクラウドの活用が可能であり効果的かのポイントを重点的に伝えること。
- また、受講者が円滑に内容を理解できるよう、受講者の所属業種／職種等を踏まえ、分かりやすい具体事例を提示しながら進めるとともに、適宜受講者の理解度、習得度を測りながら訓練を進めること。なお、訓練時間が限られていることから、適宜 e-learning 等を活用した予習/復習の実施も可とし、その場合は e-learning の事前学習状況を確認の上、訓練を進めること。

### 3. 訓練の詳細

科目名	【学科 1】第 4 次産業革命のインパクト ※任意科目
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 4 次産業革命下における新技術を含めた様々な IT の活用が、具体的にどのようなビジネスシーンでどのように生産性向上や新たな価値創造に寄与しているか、理解いただく。</li> </ul>
科目内容の詳細	<p>【最新の IT（主に、IoT、ビッグデータ、AI、クラウド等の新技術）の概要と活用事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種新技術の概要（主な機能等）</li> <li>・ 各種新技術を活用し、生産性向上や新たな事業創出等につながった事例</li> </ul> <p>※科目としての実施有無を受託者にて判断することを可とする。ただし、実施しない場合には、適宜、他の科目の中でその要素に触れること。</p>
進め方のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講者が新技術等の活用場面や効果を具体的にイメージできるよう、技術面の説明は最小限にとどめ、活用事例を主として説明すること。</li> <li>・ 紹介事例については、受講者の所属業種/職種を踏まえて選定すること。また、実践に繋がる知識となるよう、成功事例だけでなく失敗事例も含めて説明することが望ましい。</li> </ul>
使用する機器等	特になし
参考文献	<p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小ものづくり企業 IoT 等活用事例集（経済産業省 関東経済産業局）</li> <li>・ 九州 IoT 活用事例集 2017（経済産業省 九州経済産業局）</li> <li>・ 地域中小企業の新たなチャレンジのための IoT・AI 活用ガイド」（経済産業省九州経済産業局）</li> <li>・ 平成 28 年度情報通信白書第 1 部 特集 IoT・ビッグデータ・AI～ネットワークとデータが創造する新たな価値～（総務省）</li> </ul>

科目名	【学科 2】 ビジネスプロセスモデルの作成
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ITを活用した自社の業務の課題解決の過程で、現状の業務プロセスの見える化を図り、課題を明確化する手法を理解いただく。</li> <li>・ また、明確にした課題に対して ITで解決できること/できないことを整理する手法を理解いただく。</li> </ul>
科目内容の詳細	<p>【現状業務の見える化、課題・解決案の作成方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理的問題解決の手法</li> <li>・ 業務プロセスの可視化の手法（業務フロー/業務量の書き方）</li> <li>・ 課題・解決案の作成方法（あるべき姿/問題点からの整理、等）</li> <li>・ IT活用の目的と目標、ITで解決できること/できないことの整理の手法</li> </ul> <p>※地域の実情及び受講者の経験値等に応じ、事業者の判断にて科目内容のレベルの調整を行うことを可とする。ただし、「進め方のポイント」に留意の上、各科目の「ねらい」を達成することが可能な科目内容とし、レベルが著しく下がることのないようにすること。</p>
進め方のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種手法の理解はもとより、ITを活用した業務改善検討における、業務プロセス可視化の作業の重要性を理解いただけるよう説明すること。</li> <li>・ 当該科目は、受講者の習得度に応じ、適宜実技の中でも反復演習を行うこと。</li> </ul>
使用する機器等	・ パソコン（Power Point、Word、Excel、インターネット環境）
参考文献	<p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ITパスポート（独立行政法人 情報処理推進機構）</li> <li>・ プロセス指向の新たなビジネス基盤を実現する BPM/BPMN（業務モデリング手法）（平成23年度電子経済産業省推進費業務最適化のための業務モデリングに関する調査研究）</li> </ul>

科目名	【実技】 クラウドを活用した情報共有能力の拡充策立案の実践
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題の原因や解決方法に対して自ら仮説を設定し、それを裏付ける必要な情報を取得、分析し、その結果から解決策を起案し、論理的に上申できる力を習得いただく</li> <li>・ クラウドの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、クラウドを活用した自社業務の課題解決策立案に繋げることができる力を習得いただく</li> </ul>
科目内容の詳細	<p>【クラウドの概要説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機能概要</li> <li>・ 製品比較（無料/有料）</li> <li>・ クラウドの特徴（活用の向き/不向き）</li> <li>・ 活用事例</li> </ul> <p>【ケーススタディ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケーススタディにおける具体的な実施事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 進め方及びケースの内容を講師が説明</li> <li>② ケースに従い業務フローの書き起こしを実施</li> <li>③ 業務フローの中でクラウドを活用する業務場面及び活用する機能を検討（設備等の準備が可能な場合は、講師がクラウドの基礎的な操作方法を説明し、受講者本人もクラウドの操作を実施）</li> <li>④ 個人で検討後、受講者同士で共有・議論</li> <li>⑤ 全体発表、講師からのフィードバック</li> </ol> </li> </ul>

-ケーススタディ例-

例①：業務の合理化・迅速化を目的とした業務報告及びシフト管理の見直し（福祉業／訪問介護サービス本部の主任）

<場面設定例>

訪問介護サービスを提供する K 社では、利用者宅を訪問するホームヘルパーの定着率が低いという課題があった。そこで、訪問介護サービス本部の A 主任が退職者の意見を聞いてみたところ、利用者宅を訪問してサービスを提供した後、日報入力のために訪問宅から会社に戻る必要がある等、事務作業に負担を感じていたことが分かった。また、どのホームヘルパーがどの利用者宅に訪問するかの調整に時間を要し、当日の朝に事務所から送られてくるメールを受領して初めて訪問先の情報が分かる等、シフト管理が円滑に機能していない点も心理的な負担になっていたようである。A 主任はこのような状況を、クラウド型のシステムを活用することで解決できないかと考えている。

<解決策例>

- ・ファイル共有機能を活用し、訪問先あるいは自宅から日報を報告
- ・カレンダー機能を活用し、利用者宅からの訪問希望日/職員全員の訪問先予定を見える化・管理
- ・スマートフォンでも入力しやすいユーザインタフェースの導入

例②：営業力の強化を目的とした情報共有方法の見直し（製造業／本社営業部門の主任）

<場面設定例>

自動車部品の製造・販売を行う S 社では、本社・営業拠点と工場拠点が離れていることに起因してか、営業担当/設計担当/製造担当間で、製造工程進捗状況等の各種情報共有に係るタイムロスや、設計に必要な仕様の聞き漏らしや認識誤り、仕様変更の伝達漏れ等の事故が発生している。本社営業部門の B 主任は、これらの事象から起きうる顧客からの信頼低下や販売機会の損失等を懸念し、より盤石な営業体制を築くために、クラウド型システムを導入し情報伝達の仕組みを改善できないかと考えている。

<解決策例>

- ・ファイル共有機能を活用し、顧客から受領した仕様や見積書、図面、製造工程情報等を部門間でリアルタイム共有
- ・上記情報やメールを外出先からモバイル端末でも参照可能な環境とし、顧客からの問合せ対応等の迅速化
- ・カレンダー機能を活用し、工場の設備利用情報の共有
- ・チャット機能を活用し、営業活動の好事例を社内で共有

例③：コスト削減を目的とした購買管理方法の見直し（卸売業／本社調達部門の課長補佐）

<場面設定例>

建設資材・住宅機器の卸販売を行う J 社では、各事業所が個別に仕入れから販売までを行っているため、同じ仕入先でかつ同じ商材・数量であっても、事業所によって単価が異なるという事象が発生している。また、商品の在庫情報もそれぞれ

	<p>れの事業所で管理していることから、実際は他の事業所には在庫があるものも情報不足により不要に調達してしまい、社全体としては在庫過多になる等の無駄も発生している。そこで、本社調達部門の C 課長補佐は、クラウド型システムを導入して事業所間の情報を一元化する仕組みを作り、ひいては調達関連のコスト削減を実現できないか思案している。</p> <p>&lt;解決策例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウド型購買管理システムを活用し、発注、入荷、検収、支払、保管、出荷、納品を一元管理。顧客ごとあるいは商材ごとに購買データを管理・共有し、割高な購入の見直しや、まとめ買い購入による単価低減を模索。事務所ごとの在庫情報をリアルタイム共有。</li> </ul> <p>※ケーススタディの場面設定は、参加者の所属業種/職種を踏まえ、検討すること</p> <p>※ケースにおける具体的な業務内容の設定にあたっては、各業種/職種の典型的な業務が整理された文献等を参考にすること（※参考文献を参照のこと）</p> <p><b>【自社業務における、クラウドを活用した課題解決策案の検討】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社の実際の業務フローを書き起こし、クラウドを活用した課題解決策案を検討する</li> <li>・策定した案について、受講者同士での情報共有を行う</li> </ul>
進め方のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて学科 1,2 の反復演習を行いながら進行すること。</li> <li>・訓練終了後、受講者が自社の課題解決の手段としてクラウドの活用を検討できるよう、どのような業務でどのような機能を活用することが効果的か、そのポイントを重点的に伝えること。</li> <li>・設備等の準備が可能な場合は、講師がクラウドの基礎的な操作方法を説明し、受講者本人もクラウドの操作を体験いただくこと。準備が困難な場合には、動画等の教材を準備し、クラウドの実際の活用イメージを掴んでもらうことが望ましい。</li> </ul>
使用する機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン（Power Point、Word、Excel、インターネット環境）</li> <li>・クラウド型の各種システム（グループウェア等） ※任意</li> </ul>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウド提供企業が発行しているサービス/商品説明書</li> <li>・職業能力の体系（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 職業能力開発総合大学校 基盤整備センター）</li> <li>・IT ユーザーにおける IT 利活用に関するアンケート調査結果（平成 29 年度基礎的 IT リテラシーの習得カリキュラムに関する調査研究事業）</li> </ul>